

ONSA ニュース

No. 31-1

発行 2021 年 7 月 20 日

2021 年度からの事業の新しい方針	1
2021 年度定時会員総会報告	2
2021 年度からの ONSA の事業のご紹介	2
大阪ニュークリアサイエンス協会賞受賞者のことば	3
会員の紹介	6
第 73 回放射線科学研究会のご案内	7
出版物への広告の募集	8
ONSA 会員としてのご入会の勧め	8

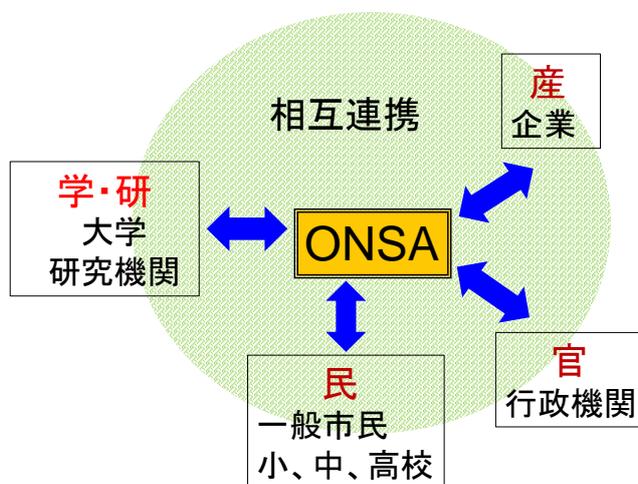
2021 年度からの事業の新しい方針

一般社団法人大阪ニュークリアサイエンス協会（ONSA）は、このたび 2021 年度の定時会員総会を開催しました。基本となる目的のもとに、新しい方針で事業を進めます。この概要をご紹介します。

基本となる ONSA の目的

放射線は今日、私たちの日常生活に欠かせない日用品の加工などに広く利用されており、病気の診断や治療にも役立っています。その経済規模は年間 4 兆円を超えるとされ、放射線利用技術は、科学技術の重要な基盤になっています。

放射線利用に関係する者や機関が相互に連携して、放射線利用技術の向上と産業の振興を図り、国際化に貢献することが ONSA の目的です。会員構成は、大学から多業種の民間企業まで多岐に亘ります。研究開発のための産学官連携のサポート、会員相互の協力による学術・技術情報の収集・提供、技術支援、技術相談や、一般社会への知識普及活動を行います。



ONSA の設立とこれまでの経緯

放射線利用技術を広く普及するため、1959年に大阪府立放射線中央研究所（後に大阪府立大学と統合）が設立されました。この研究所を活用した産学共同の研究開発を進めるため、1988年に大阪府と関係企業の発意で、社団法人の協会が設立（2013年に一般社団法人に移行）されました。

ONSA を支える状況の変化と事業の新しい方針

多くの放射線利用研究施設では、維持管理が困難になっています。大阪府立大学の ONSA 事業への支援（業務委託）の打ち切りに伴い、今年度からの事業の方針を見直します。

まず関西における放射線・原子力分野の大学、研究機関、産業界などの相互の結びつきを強めるため、各組織から多くの会員を集めます。そのうえで、図に示すような相互の連携を支え、会員のニーズに合った活動を行います。

2021 年度定時会員総会報告

ONSA は、6 月 10 日（木）、事務所のあるサンエイビルにおいて 2021 年度定時会員総会を開催しました。今年も新型コロナウイルスの影響で、多くの会員から、事前に書面による議決・委任の手続きによる出席をいただきました。

議決権のある正会員 63 名のうち、出席 56 名による総会成立が確認され、古田副会長を議長として次の項目で議事が進められ、審議の結果、原案は全て承認されました。

- ・ 2019 年度事業報告
- ・ 第 1 号議案：2019 年度貸借対照表・損益計算書（正味財産増減計算書）・財産目録（案）・貸借対照表及び損益計算書の注記・附属明細書（案）と監査報告。
第 2 号議案：2021 年度事業計画と技術研究会等開催事業と収支予算書（案）。
第 3 号議案：定款第 7 条の「別に定める会費」一部変更（案）。

続いて同会場で 2020 年度 ONSA 賞表彰式が行われ、古田副会長から 3 名の受賞者に賞状が贈呈されましたが、今回は代理受取りとしました。受賞者および業績の概要はこのニュースでご紹介します。

以上で 2021 年度定時会員総会が閉会しました。交流会は中止となりました。

2021 年度からの ONSA の事業のご紹介

事業の計画は次の通りです。特に今年度からの新しい企画にご注目ください。

1. 放射線に関する科学技術情報の収集及び提供

企画運営委員会での企画をもとに、放射線・原子力分野で放射線科学研究会（年 3～4 回、第 1 回は本ニュースに案内掲載）、放射線利用総合シンポジウム（第 30 回を 2022 年 1 月下旬に開催予定）、などの講演会や施設見学会を開催し、情報交換を行うと共に、相互交流を図ります。また依頼に応じて講師を派遣します。これまでの研究会等の資料のほか、レポートなどの情報をホームペ